

科目名 (英)	情報技術基礎 Fundamentals of Information Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	山城 真希子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	金 / 1・2限
講師紹介	コンピュータ関連企業、(株)ブレンスタッフコンサルタツのインストラクターが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての授業を行う。						
目的	安全にインターネットを利用できる技術を習得する。PowerPointを利用し、効果的なスライド作成の技術を習得する。						
科目概要	授業の前半では、新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点について、Webメールの活用法を事例を通じて考え、後半では、PowerPointの基本的操作を学び、聴衆者に伝えることを目標にレポート作成する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows(Word、Excel、PowerPoint)の基本的な操作ができる。 ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基本的な知識や注意点を理解し、正しくWebメールを活用できる。 ・PowerPointを利用し、聴衆者に伝えるレポートの作成ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験(課題提出)を20点、及びレポートを80点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	e-learning(インターネット上のテキスト)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 e-learning(インターネット上のテキスト)で次回講義までに 不明な操作を確認しておく		
参考図書	なし						
特記事項	テキストには、専門学校に必要スキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用します。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	<CCT入門1> タイピング基礎を身につけ、 Windowsの基礎的な操作ができる。	講義	・タイピングの基礎と測定をする。 ・Windows(Word、Excel、PowerPoint)の基礎的な操作をする。
2	<CCT入門2> 情報やWebメールを正しく活用できる。	講義	・Webメールの使用方法を知る。 ・インターネット情報の理解と、安全な使用方法を知る。
3	<PowerPoint1 基本操作> プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。	講義	・レベル(インデント)の設定や、行頭文字を操作することができる。 ・ノートの作成や、スライドショーを実行することができる。
4	<PowerPoint2 表現力を上げる> 図形や画像を活用したスライドを作成できる。	講義	・ワードアートの挿入、画像の挿入、テキストボックスの挿入、図形の作成と調整ができる。
5	<PowerPoint3 動きを付ける> スライドに動きを付けスライドを完成する。	講義	・画面切り替え効果の設定、アニメーション効果の設定ができる。 ・リハーサルをする。
6	<PowerPoint4 発表> 作成したスライドを使って発表できる。	講義	・発表をする。 ・リフレクションをする。
7	<PowerPoint試験対策>	講義	・学習した全学習内容の復習操作をする。
8	<PowerPoint試験>	講義	・規定時間内に指示された内容のレポートを作成することができる。

科目名 (英)	造形美術概論 Compendium of Art of Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	高橋 絵里
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月 / 2限
講師紹介	大学と大学院で美術教育について学び、美術専修免許を取得した講師が、デッサンや造形、デザインなど、歯科技工に役立つことはもちろん、日常生活の様々な場面で役に立つ形態の捉え方の授業を行う。						
目的	デッサンや粘土造形を通して形態の捉え方や、立体的な形態の表現力を習得する。						
科目概要	デッサンでは、ディテールのあるものを描くことで立体感や緻密に描写する感覚を修得し、立体造形ではモチーフの持つ丸みやボリューム・バランスなどを捉え、これらの実習を通して立体的な形態の表現力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物の形や色を正確に捉えて表現することができる。 立体的な表現方法を身につけることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	授業時間内に仕上がらない作品は次回授業までの課題とする。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	プリント(補助教材)を随時配付する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	デッサン(基本形態)	演習	<ul style="list-style-type: none"> ○△□の鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写を理解する。
2	デッサン[空き缶・空き瓶]	演習	<ul style="list-style-type: none"> 空き缶・空き瓶を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
3	デッサン[前歯部 口腔内]	演習	<ul style="list-style-type: none"> 自分の口腔内写真を観察しながら、前歯部口腔内デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。 前歯形態の特徴について理解する。 歯列弓のタイプについて理解する。 正中線、咬合平面等について理解する。
4	デッサン②[前歯部 口腔内]	演習	<ul style="list-style-type: none"> 自分の口腔内写真を観察しながら、前歯部口腔内デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。 前歯形態の特徴について理解する。 歯列弓のタイプについて理解する。 正中線、咬合平面等について理解する。
5	鉛筆デッサン[野菜]	演習	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
6	デッサン色づけ・粘土造形①[野菜]	演習	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を観察しながらデッサンに色づけを行う。 水彩絵具を使用し、立体感を濃淡で表現する技法を理解する。 モチーフの寸法やバランスを正確にとらえる。 表面性状についても細かく観察し、表現する感覚を身につける。
7	デッサン色づけ・粘土造形①[野菜]	演習	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を観察しながら粘土造形を実寸大で製作する。 モチーフの寸法やバランスを正確にとらえる。 表面性状についても細かく観察し、表現する感覚を身につける。
8	粘土造形色づけ	演習	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を観察しながら粘土造形に色づけを行う。 水彩絵具を使用し、立体感を濃淡で表現する技法を理解する。

科目名 (英)	キャリアデザイン I Career Design I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	月 / 1限
講師紹介	現場での知識や経験が豊富な歯科技工士教員を中心に授業をすすめて行く。人の中で生きることの基礎となる“コミュニケーション”技術を、一緒に学ぶ仲間とグループワークを通して習得できるよう授業を展開していく。						
目的	自己信頼を身につけるために、自己理解と他者理解を積み重ねて、コミュニケーション技法を習得する。						
科目概要	自己理解、他者理解、自己信頼を育てる為に、言葉を使って自分なりに考え、他者と考えを通じ合わせ「聞く」「話す」「読む」「書く」をグループワークを通じて理解する。						
到達目標	・聞く、話す、読む、書くの4つの技法を用いて、医療従事者として問題を解決できるコミュニケーション力を身につけることができる。 ・自己理解、他者理解を積み重ね、自己を信頼できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	キャリア教育総合研究所～めきめき本物の国語力が身につく～コミュニケーション技法			事前事後 学習と その内容	事前学習： 主体性を発揮し自問自答をし、積極的に授業に参加できるようテキストを読み返しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・体験学習「積極的に参加した事を振り返る」 ・グループ学習「グループで対話し、意見をまとめる」						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	聞き上手の技法1	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・伝達ゲームをする。 ・コミュニケーション技法の目的と目標を知る。 ・「宮沢賢治について」グループ学習でコミュニケーションする。
2	聞き上手の技法2	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・事前学習シートのグループ発表する。 ・ブレインストーミング法・KJ法を知る。 ・「学習振り返りシート」に記入をする。
3	聞き上手の技法3	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・「聞き取りゲーム」でコミュニケーションする。 ・「聞き上手になるには」についてグループ学習でコミュニケーションする。 ・「学習振り返りシート」に記入をする。
4	話し上手の技法1	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・「話し上手ゲーム」でコミュニケーションする。 ・「どんな発表がわかりやすかったか」についてグループ学習でコミュニケーションする。 ・「学習振り返りシート」に記入をする。
5	話し上手の技法2	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・「売り込みゲーム」でコミュニケーションする。 ・「売り込み成功のコツは」についてグループ学習でコミュニケーションする。 ・「学習振り返りシート」に記入をする。
6	書き上手の技法	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・「自己PR大会」でコミュニケーションする。 ・「自分らしさはどこにあるか」についてグループ学習でコミュニケーションする。 ・「学習振り返りシート」に記入をする。
7	自分探しの技法	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・「自分らしさ探し」でコミュニケーションする。 ・「学習振り返りシート」に記入をする。
8	人間関係を深める技法	講義	・課題図書を読んで感じたことを発表する。 ・「〇年後の自分へ」でコミュニケーションする。 ・「コミュニケーション技法を通して気づき、学んだこと」についてグループ学習でコミュニケーションする。 ・「学習振り返りシート」に記入をする。

科目名 (英)	歯科技工学概論 Compendium of Dental Technology Science	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日・時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性、歯科技工物についての概要を理解する。						
科目概要	歯科医療に関する基礎知識、歯科技工士の重要性及び歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の名称や役割、製作する様々な補綴装置を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工用機械・器具・材料を説明できる。 ・歯科の二大疾患とその治療方法を説明できる。 ・代表的な補綴装置の種類、製作方法を説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	入学前から始める! 歯科技工の基礎知識 (滋慶教育科学研究所)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。		
参考図書	なし				事後学習: 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けて復習を行う。		
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時 講演終了後、レポートを提出すること。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工用機械・器具・材料を知る。①	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工用機械を技工操作に関連させ理解する。 ・歯科技工用器具を技工操作に関連させ理解する。 ・歯科用材料を診療行為と技工操作に関連させ理解する。
2	歯科技工用機械・器具・材料を知る。②	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工用機械を技工操作に関連させ理解する。 ・歯科技工用器具を技工操作に関連させ理解する。 ・歯科用材料を診療行為と技工操作に関連させ理解する。
3	歯科医師との連携 (学校長講演)	講義	・歯科医師の先生より、歯科医師と歯科技工士の関係性や歯科治療における歯科技工士の重要性を理解する。
4	歯科の二大疾患について知る。	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の構造について理解する。 ・齲蝕の原因について理解する。 ・歯周病の原因について理解する。
5	虫歯になったら	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・虫歯になってしまった際の治療方法について理解する。 ・虫歯の進行度合いによつての処置方法について理解する。
6	補綴装置の種類について知る。	講義	・虫歯の進行状況によつて異なる治療方法を知り、状況に合った補綴装置の製作方法を理解する。
7	補綴装置の製作順序	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウン(被せ物)の製作順序を理解する。 ・パーシャルデンチャー(部分入れ歯)の製作について理解する。
8	卒業生講演	講義	・卒業生講演を聴講し、将来の技工士像を考えるきっかけにする。

科目名 (英)	歯の解剖学基礎 I Dental Anatomy-Basis I	年次	1年	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵 前期 木 / 3・4限
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分 曜日/時間	
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験豊富な教員が、現在の業界動向も交えた解剖学の知識を、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用して授業を行う。						
目的	1本の歯が上下左右どの位置にあるのか判断できるようになるために、歯に関する専門用語と歯の観察方法についての知識を習得する。						
科目概要	歯や口の中を歯科技工士がどのように観察し、表現するのかを、専門用語や永久歯の形態的特徴を捉えながら、実際の口腔内や模型で理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの歯の全般的な特徴について図を用いて説明することができる。 ・前歯、小臼歯、大臼歯の特徴を踏まえて、指示した歯の上下左右を指摘することができる。 ・顎関節の構成とその機能について、図を活用して説明することができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出题する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に(楽しく)受けることができる。この時間に10分程度要することが想定される。事後学習の成果確認を目的に、毎授業の最初に小テストを行う。この準備に40分程度要することが想定される。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	自分の口腔内模型を持参すると、より深く興味関心が湧き、積極的に授業に参加することが出来る。講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 前歯を専門家として観察する	講義	自分と他人の歯の比較を通じて、歯の特徴を専門家として観察する。
2	中切歯と側切歯の特徴について	講義	笑うと最も目立つ、口の中央にある歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、中切歯と側切歯の特徴をリストにすることができる。
3	上顎第一大臼歯の特徴について	講義	上顎の大臼歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、大臼歯の特徴をリストにすることができる。
4	上顎大臼歯の比較について	講義	上顎にあるすべての大臼歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、大臼歯の特徴をリストにすることができる。
5	下顎第一大臼歯の特徴について	講義	下顎の大臼歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、大臼歯の特徴をリストにすることができる。
6	下顎第二大臼歯の特徴と 下顎大臼歯の比較について	講義	下顎にあるすべての大臼歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、大臼歯の特徴をリストにすることができる。
7	上下顎犬歯の比較について	講義	上下の犬歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、犬歯の特徴をリストにすることができる。
8	7回目までの振り返り	講義	中切歯、小臼歯、大臼歯の特長と左右鑑別について、今まで実施した授業内容を振り返り理解度を確認する。
9	筋肉の仕組み・頭蓋骨の概説	講義	筋肉の仕組みを学び、顔にある筋肉の特徴を指摘することができる。筋肉が付着する骨の名称を理解する。
10	咀嚼筋について	講義	食べるときに使われる筋肉の名称と仕組みを学び、それぞれの動きを説明することができる。
11	顎関節について	講義	担当: 中村雅典(昭和大学歯学部教授) 顎関節の構造がどのようになっているかを知り、その運動の仕組みを理解する。また、関節を動かす筋肉について、その名称と特徴を理解する。
12	上顎第一小臼歯の特徴について	講義	上顎小臼歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、小臼歯の特徴をリストにすることができる。
13	下顎第一小臼歯の特徴について	講義	下顎小臼歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、小臼歯の特徴をリストにすることができる。
14	上下顎小臼歯の比較	講義	上下顎にあるすべての小臼歯について、専門家として自分の歯を用いて観察する。観察を通じてその特徴は何かを探求し、小臼歯の特徴をリストにすることができる。
15	14回目までの振り返り	演習	歯の特徴・鑑別について、筋と関節の構造・名称・作用について、今まで実施した授業内容を振り返る。

科目名 (英)	歯型彫刻基本 Dental Carving	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵
		授業形態	実習		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1	(コマ数)	曜日/時間	月～金 / 1～3限	
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験豊富な教員が、現在の業界動向も交えた解剖学の知識を、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用して授業を行う。						
目的	歯科技工物の製作に必須である、基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	代表的な(特徴のある)歯について、見本模型を見て特徴を確認しながら、彫刻やデッサンを通じて再現する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の彫刻に必要な道具の正しい使い方を指摘することができる。 ・角柱の作り方がわかり、指定時間内に製作することができる。 ・歯の見本模型や実習帳を確認しながら、指定時間内に指定する歯種を彫刻することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習： 毎日決めた時間内にデッサンをして大まかな形を覚え、彫る練習を すると、比較的上達が早くなる。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 彫刻に使用する道具の使い方	実習	石膏棒を制作する道具を選び、石膏棒の制作を行う。 切り出しナイフの正しい持ち方を習得し、角柱を作る。
2	整理整頓について 切り出しナイフを使って角柱を作る	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような状態が「整理整頓」と「手早い片付け」であるか気づくことができる。 ・1.3倍大の中切歯の面取り方法がわかる。 ・前回の復習に挑戦する。
3	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
4	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
5	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
6	上顎大臼歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
7	上顎大臼歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
8	上顎大臼歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
9	試験形式で練習の成果を確認する (角柱:下顎大臼歯) (面取り:上顎大臼歯)	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された寸法の角柱を指定した時間内に完成させる。 ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・練習で気づいた、製作のコツを記録する。
10	16の主溝・荒彫り	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎第一大臼歯のデッサンを描き、特徴を3つあげる。 ・上顎第一大臼歯の特徴を再現することができる。 ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。
11	16の主溝・荒彫り	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎第一大臼歯の特徴を再現することができる。 ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。
12	16の仕上げ彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎第一大臼歯の特徴を再現することができる。 ・エバンスを正しく持つ、指の支点を作る。
13	下顎大臼歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
14	下顎大臼歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
15	下顎大臼歯の石膏棒を使った面取り彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。

科目名 (英)	歯科理工学基礎 I Dental Materials Science-Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日・時間	木 / 2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し、大学附属病院で材料の研究をしている講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	安全で、精度の良い歯科技工物を製作するために、歯科材料(石膏・レジン・金属)の性質や取り扱い方法を習得する。						
科目概要	石膏、義歯床用レジンの性質、歯科用金属について種類と性質を理解し、理論に基づいた取り扱いができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい石膏の取り扱いについて理解することができる。 ・正しいレジンの取り扱いについて理解することができる。 ・正しい金属の取り扱いについて理解することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業では、前回の復習を10問程度の小テストで行う。事前学習としては、実習を振り返り使用材料や取り扱いの方法を確認しておくが良い。また、実習で使用していない材料については教科書等を読み、材料名などを事前に覚えておくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	材料の種類と性質	講義	歯科の修復で使用する材料の種類と材料の性質について、図や表を活用して理解する。材料の種類や性質が説明できるようになる。
2	石膏①	講義	口腔内の形状を再現する為、また歯科技工物の製作の工程で色々な種類の石膏を使用する。それぞれの性質と用途を理解することで、技工物の製作時に役立てることができる。
3	石膏②	講義	口腔内の形状を再現する為、また歯科技工物の製作の工程で色々な種類の石膏を使用する。それぞれの性質と用途を理解することで、技工物の製作時に役立てることができる。
4	義歯床用レジン①	講義	義歯床用レジンについて、義歯をつくる上で理解しておくべき性質や成分について理解することで、義歯の製作時に役立てることができる。
5	義歯床用レジン②	講義	義歯床用レジンについて、義歯をつくる上で理解しておくべき性質や成分について理解することで、義歯の製作時に役立てることができる。
6	歯冠用硬質レジン	講義	前歯に使用する歯冠色材料の一つに硬質レジンがある。硬質レジン全装冠を製作する上で理解しておくべき性質や成分について理解することで、製作時に役立てることができる。
7	6回までの講義振り返り	講義	1回～6回の内容を試験形式で確認し、解説を行う。
8	デジタル歯科技工について	講義	デジタル歯科技術について画像や表を使い、最新の技術を理解することができる。歯科技工士の新しい働き方を理解することができる。
9	金属	講義	歯科の修復材料として欠かせない金属の性質について、特に歯科用合金の性質について理解することで金属冠や金属フレームの製作時に役立てることができる。
10	金合金①	講義	金を主成分とする合金について、金属冠をつくる上で理解しておくべき性質や成分について知り、金属冠の製作時に役立てることができる。
11	金合金②	講義	金を主成分とする合金について、金属冠をつくる上で理解しておくべき性質や成分について知り、金属冠の製作時に役立てることができる。
12	銀合金	講義	銀を主成分とする合金について、金属冠をつくる上で理解しておくべき性質や成分について知り、金属冠の製作時に役立てることができる。
13	非貴金属合金	講義	非貴金属を主成分とする合金について、金属冠をつくる上で理解しておくべき性質や成分について知り、金属床フレームやクラスプ、矯正用ワイヤーの製作時に役立てることができる。
14	まとめ② (金属～非貴金属)	講義	歯科用金属全般について、今まで実施した授業内容を振り返り理解度を確認することができる。
15	前期まとめ	講義	「歯科理工学基礎 I」の内容について、今まで実施した授業内容を振り返り、プリントなどを用いながら知識の定着を確認することができる。

科目名 (英)	有床義歯技工学基礎 I Denture Techniques-Basic I	年次	1	必修科目	実務経験 有	科目 責任者	安池 和香葉
		授業形態	講義	授業回数 (コマ数)		15	
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	単位	2	曜日/時間	金 / 3限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院、歯科技工所、材料メーカーでの実務経験を有している現役の歯科技工士が授業を行う。						
目的	部分床義歯を中心に、有床義歯製作に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	部分床義歯の構成要素、技工操作の手順をヒトの生体に関する基礎知識に関連付けて理解する。 実習授業においてそれらの知識を活用できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に歯が抜けた口腔内の変化を知り、有床義歯の重要性を理解する。 部分床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容の確認し、わかる範囲で自習学習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けて復習を行う。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	生体についての基礎知識①	講義	歯が無くなってしまった口腔内の変化について知り、入れ歯がどのように装着されているかを知ることができる。				
2	生体についての基礎知識②	講義	歯が無くなってしまった口腔内について、義歯製作に必要な基準を知ることができる。				
3	部分床義歯の意義と目的	講義	部分床義歯について、基礎的な知識を知ることができる。				
4	サベイング	講義	サベイングとは何か。また、その使用目的について知ることができる。サベイヤーの種類、付属品の用途について知ることができる。				
5	支台装置①	講義	支台装置とは何かを知り、支台歯装置製作にあたって必要な語句を知ることができる。支台装置の種類と各部名称を知ることができる。				
6	支台装置②	講義	支台装置の種類別による特徴を知ることができる。支台装置の種類による適応症、禁忌症を知ることができる。				
7	支台装置まとめ(教授講義)	講義	支台装置についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。				
8	7回までの講義振り返り	講義	1回～7回の内容を試験形式で確認し、解説を行う。				
9	レスト・アタッチメント	講義	レストの種類と設定の目的について知ることができる。支台装置の一種であるアタッチメントの種類、それぞれの利点と欠点を知ることができる。				
10	連結子①	講義	上顎の連結子について、形態の違いによる種類を知ることができる。上顎連結子の種類による適応症、禁忌症を知ることができる。				
11	連結子②	講義	下顎の連結子について、形態の違いによる種類を知ることができる。下顎連結子の種類による適応症、禁忌症を知ることができる。				
12	部分床義歯 義歯床	講義	欠損状況に適応する義歯床形態について知ることができる。				
13	部分床義歯 埋没・重合	講義	部分床義歯の欠損状況の違いによるフラスコ埋没方法を知ることができる。重合の失敗とその原因を学び、失敗しないための方法を理解する。				
14	連結子(教授講義)	講義	連結子についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。				
15	個人トレー	講義	個人トレーの構造、利点、製作手順を理解する。全部床義歯用、部分床義歯用を比較し違いを理解する。				

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習 I Basic Training of Partial denture Techniques I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水/1,2限 金/1限 他
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	義歯製作の基本的な手順を理解し、患者体験を通じて歯科医療における歯科技工士の役割を理解する。						
科目概要	学生自身の口腔内に装着できる「口蓋板」の製作を通して、義歯製作の手順及び使用材料の特徴について、その概略を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義歯製作の「埋没操作」を理解し、実践できるようになる。 ・有床義歯の材料である「加熱重合レジン」の特性を理解し、レジン操作を習得する。 ・自身の製作した口蓋板(技工物)の装着体験を通じて、義歯(技工物)を使用する患者の気持ちを考えることが出来るようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 事後学習: 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	個人トレーの製作①	実習	トレー用常温重合レジンの特性を知る。 自身の口腔内にあった個人トレーの製作を行う。
2	個人トレーの製作②	実習	トレー用常温重合レジンの特性を知る。 自身の口腔内にあった個人トレーの製作を行う。
3	口腔内印象 模型製作①	実習	実際に使用される材料を使って、自身の口腔内印象をとる。 個人トレーに枠(ボクシング)を付け、石膏注入の準備をする。
4	模型製作②	実習	ボクシングを行った口腔内印象に石膏を注入する。
5	設計 ワックスアップ①	実習	製作した口腔内模型に設計線を記入する。 設計線に合わせてワックスアップを行う。
6	ワックスアップ② トリミング	実習	ワックスアップ部分をきれいに仕上げる。 模型の不要な部分を削って、埋没の準備をする。
7	フラスコ一次埋没	実習	フラスコへの一次埋没を行う。
8	フラスコ二次埋没	実習	フラスコへの二次埋没を行う。
9	流蠟	実習	ワックスを除去する。 分離材の塗布。
10	レジン填入～重合①	実習	加熱重合レジンの練和。 餅状レジンの填入～重合。
11	レジン填入～重合②	実習	加熱重合レジンの練和。 餅状レジンの填入～重合。
12	掘り出し	実習	重合後の掘り出し操作を行う。
13	形態修正①	実習	重合された口蓋板の形態修正を行う。
14	形態修正② 研磨①	実習	口蓋板の形態修正、研磨を行う。
15	研磨② 完成	実習	口蓋板を研磨、完成させる。 口腔内にセットして、入れ歯体験をする。

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅱ Basic Training of Partial denture TechniquesⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水/1,2限 金/1限 他
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	部分床義歯における支台装置(クラスプ)の役割について、鑄造鉤の製作を通じて理解する。						
科目概要	部分床における支台装置の役割を理解し、クラスプ及び部分床義歯の製作を通して、基本的な設計の方法、代表的な器材であるサベイヤーの使用方法について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サベイヤーの使用目的や使用方法を理解し、操作することができる。 ・線鉤、鑄造鉤の設計を理解し、設計線を描くことができる。 ・鑄造鉤の製作方法、製作上の注意点(金銀パラジウム合金の鑄造方法、注意点、熱処理の目的)を理解し、作業することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	サベイング・設計① 【上顎:66T-31U・下顎:66T-22L】	実習	上顎模型を使用してサベイヤーの使用方法、使用上の注意点を理解し、操作する。 下顎模型(66T-22L)の咬合器装着の準備をする。 ※サベイング用模型(66T-31Uサベイング用) ※設計用模型(66T-31UPD製作用)
2	サベイング～設計② ブロックアウト	実習	ブロックアウトの基本操作、注意点を理解し、作業する。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。
3	複印象前準備～複印象	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点を理解し、作業する。 複印象前準備～複印象までの方法、注意点を理解し、作業する。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。
4	耐火模型製作	実習	気泡混入に注意しながら耐火模型材を注入できる。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。
5	ワックスバス～設計転記	実習	ワックスバスの注意点を理解し、作業する。 設計転記の注意点を理解し、確実に設計を行う。
6	鑄造鉤・ワックスアップ①	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点を理解し、作業する。 鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業する。
7	鑄造鉤・ワックスアップ② 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。
8	鑄造鉤・ワックスアップ③ 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業する。 鑄造鉤埋没の前準備(トリミング)、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。
9	鑄造鉤・前準備～埋没 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の埋没方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。
10	鑄造鉤・鑄造 線鉤屈曲	実習	鑄造方法、注意点を理解し、作業する。
11	鑄造鉤・形態修正 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の形態修正・研磨方法、注意点を理解し、作業する。
12	鑄造鉤・熱処理① 線鉤屈曲	実習	軟化熱処理・硬化熱処理の方法、注意点を理解し、作業する。
13	鑄造鉤・熱処理② 線鉤屈曲	実習	軟化熱処理・硬化熱処理の方法、注意点を理解し、作業する。
14	鑄造鉤・研磨① 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の研磨方法、注意点を理解し、作業する。
15	鑄造鉤・研磨② 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の研磨方法、注意点を理解し、作業する。 鑄造鉤の適合を確認し、調整する。

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅲ Basic Training of Partial denture TechniquesⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水/1,2限 金/1限 他
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	部分床義歯における人工歯排列や歯肉形成の基本的な知識について製作を通じて理解する。						
科目概要	部分床義歯の人工歯排列や歯肉形成について基本的な知識を確認し、製作を通じて理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・線鉤、鑄造レストの製作方法、製作上の注意点を理解し、作業することができる。 ・上顎大連結子の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作することができる。 ・部分床義歯の人工歯の排列・歯肉形成についての製作方法、製作上の注意点を理解し、作業することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートの評価を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	線鉤・鑄造レストの製作①	実習	鑄造レストの製作方法、注意点を理解し、ワックスアップを行う。 鑄造レストの製作方法、注意点を理解し、埋没を行う。
2	線鉤・鑄造レストの製作② パラタルバー設計・屈曲	実習	鑄造レストの製作方法、注意点を理解し、埋没を行う。 大連結子の役割、種類を理解し、屈曲の準備を行う。
3	パラタルバー屈曲① 鑄造レストの埋没	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、屈曲を行う。 鑄造レストの埋没を行う。
4	パラタルバー屈曲② 鑄造レストの埋没	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、屈曲を行う。 鑄造レストの埋没を行う。
5	パラタルバー屈曲③ 鑄造レストの鑄造	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、屈曲・研磨を行う。 鑄造レストの鑄造を行う。
6	パラタルバー屈曲④ 鑄造レストの鑄造	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、研磨を行う。 鑄造レストの鑄造を行う。
7	クラスプ・パラタルバーの固定	実習	クラスプ・パラタルバーの固定方法、注意点を理解し、作業する。
8	人工歯排列 (中間欠損)	実習	部分床義歯の人工歯排列方法を理解する。 人工歯の調整方法、注意点を理解する。
9	歯肉形成 (中間欠損)	実習	部分床義歯の人工歯排列～歯肉形成までの方法、注意点を理解する。 部分床義歯の歯肉形成(中間欠損)の方法、注意点を理解する。
10	人工歯排列 (遊離端欠損)	実習	部分床義歯の人工歯排列方法を理解する。 人工歯の調整方法、注意点を理解する。
11	歯肉形成 (遊離端欠損) 蝟義歯 完成【66T-31(U)】	実習	部分床義歯の人工歯排列～歯肉形成までの方法、注意点を理解する。 部分床義歯の歯肉形成(遊離端欠損)の方法、注意点を理解する。 部分床義歯の人工歯排列～蝟義歯完成までの方法、注意点を理解する。
12	片側中間欠損義歯の製作① 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、サベイングを行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、設計を行う。
13	片側中間欠損義歯の製作② 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、設計を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、ブロックアウトを行う。
14	片側中間欠損義歯の製作③ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、ブロックアウトを行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、耐火模型製作(複印象)を行う。
15	片側中間欠損義歯の製作④ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、耐火模型製作(複印象～耐火模型材注入)を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、線鉤の屈曲を行う。

科目名 (英)	歯冠修復技工学基礎 I Restorative Dentistry Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2	(コマ数)		曜日・時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	顎の動きや口の周りの筋肉と調和する補綴物を作るための要件や製作方法を口腔内で使用される材料と関連付けて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・要件について説明することができる。 ・作業用模型の製作や種類、辺縁形態について説明することができる。 ・全部被覆冠、部分被覆冠についての特徴や分類を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習： 毎回の授業最初に、前回の講義内容の確認テストを行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生物学的要件①	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯を製作する為の歯と歯列の関係、形態について理解する。 ・隣の歯と接している位置や強さについて理解する。
2	生物学的要件②	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・鼓形空隙の形態や辺縁部の適合について理解する。 ・豊隆について理解する。 ・清掃性、生物学的幅径、機能の回復について理解する。
3	構造力学的要件	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・機械的強度、耐摩耗性、熱膨張係数、形成性について理解する。 ・修復材料の特性、力学的安定性(金属、レジン、陶材の特性)について理解する。 ・維持力について理解する。
4	化学的要件・補綴物の製作順序	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・材料学的要件(生体安全性、ガルバニー電流)について理解する。 ・化学的安定性(耐変色性、耐食性、アレルギー反応)について理解する。
5	作業用模型の種類	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・作業用模型の長所短所について理解する。 ・作業用模型の要件について理解する。 ・作業用模型の種類と特徴について理解する。
6	歯型トリミングと辺縁形態	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯型トリミングの目的を理解する。 ・辺縁形態の種類と用途について理解する。 ・辺縁形態の特徴について理解する。
7	振り返り	講義	生物学的要件、構造力学的要件、化学的要件、補綴物の製作順序、作業用模型の種類、歯型トリミングと辺縁形態について振り返る。
8	理解度チェック	講義	生物学的要件、構造力学的要件、化学的要件、補綴物の製作順序、作業用模型の種類、歯型トリミングと辺縁形態について理解度を設問し確認する。
9	部分被覆冠(インレー・アンレー)	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・部分被覆冠の分類ができるようになる。・Blackによる分類を理解する。 ・窩洞の構成について理解する。 ・インレーの特徴を理解する。
10	印象・蝟型	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・精密印象材の種類と特徴について理解する。 ・概形印象材の種類と特徴について理解する。 ・印象材の取り扱い方、蝟型の採得方法について理解する。
11	全部金属冠・スプルー植立	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・支台歯の辺縁・咬合面の形態、咬合面の削除量について理解する。 ・全部金属冠の特徴、用途、スプルーの植立位置について理解する。 ・辺縁を歯肉縁下に入れる目的を理解する。
12	研究用模型・蝟型・埋没	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・研究用模型の目的、用途について理解する。 ・蝟型の接触点の追加、リムーバルノブ、湯だまりの目的を理解する。 ・埋没材の種類、埋没方法について理解する。
13	鋳造・研磨	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳造リングの加熱目的・加熱温度について理解する。 ・金属の溶解方法、鋳造体の清掃方法について理解する。 ・研磨方法の目的、種類、手順について理解する。
14	部分被覆冠(一部被覆冠)	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・一部被覆冠の特徴について理解する。 ・3/4冠、4/5冠、プロキシマルハーフクラウンの特徴について理解する。 ・ピンレッジについて理解する。
15	支台築造	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・支台築造の目的、分類、利点について理解する。 ・分割コアの概要について理解する。 ・製作方法、ヘミセクションについて理解する。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習 I Basic Training of Restorative Dentistry I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するために、模型製作の手順とワックスアップの知識、技術を習得する。						
科目概要	模型製作や、ワックスアップに必要な器材の正しい使用方法を反復練習を通じて習得し、26クラウンのワックスアップまで製作できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 作業用模型を製作することができる。 全部金属冠を製作する為にワックスアップで形を作ることができる。 ワックスアップの操作方法、研磨しやすい溝の形成ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: 指示があったところまで、実習を進めておく。 事後学習: 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。 						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワックスの取り扱い方	実習	<ul style="list-style-type: none"> 気泡が入らないワックスの流し方を習得する。(ワックスを取る、流す練習) 咬合面パターンヘスブルーの立て方を習得する。 円柱のワックス盛り上げ練習をする。
2	埋没・円柱の盛り上げ	実習	<ul style="list-style-type: none"> 埋没する為の埋没材と水の量、気泡を入れない為の埋没方法が分かる。(鑄型を作る) 円柱のワックス盛り上げ練習をする。
3	鑄造・対合歯模型の製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> 遠心鑄造器の取り扱い方、金属を溶かし鑄込むタイミングを習得する。 還元炎の作り方を習得する。 石膏の注入方法を習得する。
4	鑄造・対合歯模型の製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> 遠心鑄造器の取り扱い方、金属を溶かし鑄込むタイミングを習得する。 還元炎の作り方を習得する。 石膏の注入方法を習得する。
5	円柱の盛り上げ・対合歯模型の製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> 円柱のワックス盛り上げ練習をする。 石膏の注入方法を習得する。
6	研磨	実習	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの使い方、持ち方、動かし方について習得する。 スブルーカット、荒研磨、中研磨、仕上げ研磨の手順と研磨方法について習得する。
7	円柱の盛り上げ・対合歯模型の製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> 円柱のワックス盛り上げ練習をする。 石膏の注入方法を習得する。
8	インレーの盛り上げ・咬合器装着	実習	<ul style="list-style-type: none"> インレーのワックス盛り上げの方法を習得する。 咬合器に模型を装着する。
9	インレーの盛り上げ・咬合器装着	実習	<ul style="list-style-type: none"> インレーのワックス盛り上げの方法を習得する。 咬合器に模型を装着する。
10	フィッシュマウスの製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> フィッシュマウスの形態をワックスで盛り上げる手順を習得する。
11	26クラウンワックスアップ①	実習	<ul style="list-style-type: none"> ワックスの盛り方、手順を習得する。 フィッシュマウスまでの歯冠外形の盛り上げ手順を覚える。
12	26クラウンワックスアップ②	実習	<ul style="list-style-type: none"> ワックスの盛り方、手順を習得する。 クラウンの歯冠外形の盛り上げ操作、主溝の位置を覚える。 咬合接触、隣接接触点の位置を理解し製作することができる。
13	26クラウンワックスアップ③	実習	<ul style="list-style-type: none"> 研磨がしやすい溝の入れ方を習得する。 接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノブ、スブルーの植立位置を理解する。
14	26クラウンワックスアップ④	実習	<ul style="list-style-type: none"> 接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノブ、スブルーの植立位置を理解する。 ワックススブルーを植立し埋没をする。
15	26クラウンワックスアップ⑤	実習	<ul style="list-style-type: none"> 接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノブ、スブルーの植立位置を理解する。 ワックススブルーを植立し埋没をする。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅱ Basic Training of Restorative Dentistry Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	火 / 1・2限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するために、咬合の知識と全部金属冠の製作技術を習得する。						
科目概要	模型製作や、インレー、クラウンの製作に必要な器材の正しい使用方法を反復練習を通じて習得し、クラウンが製作できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 作業用模型が製作することができる。 全部金属冠の(下顎)ワックスアップの盛り上げ方、咬み合わせ方の技術を習得する。 メタルコアのワックスアップ、鑄造をすることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: 指示があったところまで、実習を進めておく。 事後学習: 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。 						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	In模型製作、鑄造	実習	<ul style="list-style-type: none"> ダウエルピンを植立し、回転防止孔をつける。 鑄造操作、遠心鑄造器の取り扱い方を習得する。 ブローパイプで金属を溶かすタイミングを習得する。
2	In模型製作、鑄造	実習	<ul style="list-style-type: none"> ダウエルピンを植立し、回転防止孔をつける。 鑄造操作、遠心鑄造器の取り扱い方を習得する。 ブローパイプで金属を溶かすタイミングを習得する。
3	In模型製作、クラウンの適合	実習	<ul style="list-style-type: none"> 二次石膏を注入する。 クラウンの適合状態を確認する。
4	In模型製作、クラウンの適合	実習	<ul style="list-style-type: none"> 二次石膏を注入する。 クラウンの適合状態を確認する。
5	In模型製作、クラウンの適合	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型の分割、トリミングをする。 クラウンの適合状態を確認する。
6	クラウンの研磨①	実習	<ul style="list-style-type: none"> マージンの研磨方法を習得する。 隣接接触点、咬合の調整方法を習得する。 荒研磨までできる。
7	クラウンの研磨②	実習	<ul style="list-style-type: none"> マージンの研磨方法を習得する。 隣接接触点、咬合の調整方法を習得する。 荒研磨までできる。
8	クラウンの研磨③	実習	<ul style="list-style-type: none"> マージンの研磨方法を習得する。 隣接接触点、咬合の調整方法を習得する。 荒研磨までできる。
9	16インレーのワックスアップ①	実習	<ul style="list-style-type: none"> ワックスの盛り方、手順を習得する。 インレーの歯冠外形の盛り上げ操作、主溝の位置を覚える。 隣接接触点の位置を理解し製作することができる。
10	16インレーのワックスアップ②	実習	<ul style="list-style-type: none"> ワックスの盛り方、手順を習得する。 インレーの歯冠外形の盛り上げ操作、主溝の位置を覚える。 隣接接触点の位置を理解し製作することができる。
11	臼歯メタルコアのワックスアップ①	実習	<ul style="list-style-type: none"> ポストの採得方法を習得する。 コアの形態、維持力の調整を習得する。
12	46Cr模型製作・コア、インレーの鑄造	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型可撤式模型の製作手順を覚える。 鑄造操作が一人で出来るようにする。 鑄造のタイミングを理解する。
13	46Cr模型製作・コア、インレーの鑄造	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型可撤式模型の製作手順を覚える。 鑄造操作が一人で出来るようにする。 鑄造のタイミングを理解する。
14	46Cr模型製作・インレーの研磨	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型可撤式模型の製作手順を覚える。 インレーの研磨の手順を覚える。 隣接接触点の調整方法を理解する。
15	46Cr模型製作・メタルコアの研磨	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型可撤式模型の製作手順を覚える。 メタルコアの軸面調整方法を覚える。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅲ Basic Training of Restorative Dentistry Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日・時間	火 / 1・2限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するために、咬合の知識とブリッジの製作技術を習得する。						
科目概要	ポンティック形態の基本的な知識や技術を身につけ、クラウンとブリッジを製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 作業用模型を製作することができる。 下顎臼歯部のブリッジのワックスアップ、特にポンティックの形態を作ることができる。 ブリッジを鋳造し、荒研磨まで行うことができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: 指示があったところまで、実習を進めておく。 事後学習: 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。 						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯型分割・咬合器装着	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型の分割方法を覚える。 下顎模型の装着方法を覚える。
2	咬合器装着	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型の分割方法を覚える。 上顎模型の装着方法を覚える。
3	46クラウンのワックスアップ①	実習	<ul style="list-style-type: none"> ワックスの盛り方、手順を習得する。 フィッシュマウスまでの歯冠外形の盛り上げ手順を覚える。
4	46クラウンのワックスアップ②	実習	<ul style="list-style-type: none"> ワックスの盛り方、手順を習得する。 クラウンの歯冠外形の盛り上げ操作、主溝の位置を覚える。 咬合接触、隣接接触点の位置を理解し製作することができる。
5	46クラウンのワックスアップ③	実習	<ul style="list-style-type: none"> 研磨がしやすい溝の入れ方を習得する。 接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノフ、スプルーの植立位置を理解する。
6	21クラウン作業用模型の製作・埋没	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型可撤式模型の製作手順を覚える。 埋没操作が一人で出来るようにする。
7	21クラウン作業用模型の製作・鋳造	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型可撤式模型の製作手順を覚える。 鋳造操作が一人で出来るようにする。 鋳造のタイミングを理解する。
8	21クラウン作業用模型の製作・鋳造	実習	<ul style="list-style-type: none"> 歯型可撤式模型の製作手順を覚える。 鋳造操作が一人で出来るようにする。 鋳造のタイミングを理解する。
9	分割・歯型トリミング	実習	<ul style="list-style-type: none"> ショルダーの辺縁形態を理解する。 ショルダーのトリミング方法を習得する。
10	ワックスアップ①	実習	<ul style="list-style-type: none"> 前歯のワックスアップの手順を習得する。 前歯の形態を覚える。 前歯の歯冠表面性状を理解し再現する。
11	ワックスアップ②	実習	<ul style="list-style-type: none"> 前歯のワックスアップの手順を習得する。 前歯の形態を覚える。 前歯の歯冠表面性状を理解し再現する。
12	ワックスアップ③	実習	<ul style="list-style-type: none"> 窓あけの手順を習得する。 エアイベントを付与する。 前装部にリテンションピースを付与する。
13	Br作業模型製作・埋没・鋳造	実習	<ul style="list-style-type: none"> 前歯の埋没方法を習得する。 エアイベントの目的を理解する。 鋳造方法を習得する。
14	Br作業模型製作・埋没・鋳造	実習	<ul style="list-style-type: none"> 前歯の埋没方法を習得する。 エアイベントの目的を理解する。 鋳造方法を習得する。
15	Br作業模型製作・メタル調整	実習	<ul style="list-style-type: none"> 鋳造方法を習得する。 前装冠の研磨方法を習得する。 前装部辺縁の調整方法を習得する。

科目名 (英)	技工基本実習 I Basic Training of Dental technology I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月 / 3・4限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	限られた時間の中で課題が完成できるよう、反復練習を行い基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	歯冠修復基礎実習における基本操作(盛る・削る・並べる)を通じて、指定した歯種を規定時間内で製作する。						
到達目標	・ワックスアップの基本操作を理解し、ワックス操作ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点として評価する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学・有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、必要な準備をして授業に臨むこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワックス、バーナーの取り扱い	実習	各種ワックスを取り扱うことができる。 ガスバーナーを取り扱うことができる。
2	石膏の取り扱い	実習	石膏(手練り、真空練和)を取り扱うことができる。 界面活性剤、バイブレーターを取り扱うことができる。
3	エンジンの取り扱い	実習	技工用エンジンを取り扱うことができる。
4	トレーレジンの取り扱い	実習	トレーレジンの取り扱いができる。
5	修復①	実習	模型製作をする。
6	修復②	実習	模型製作をする。
7	修復③	実習	模型製作をする。
8	修復④	実習	ワックスアップの練習をする。
9	修復⑤	実習	ワックスアップの練習をする。
10	修復⑥	実習	ワックスアップの練習をする。
11	修復⑦	実習	ワックスアップの練習をする。
12	修復⑧	実習	ワックスアップの練習をする。
13	修復⑨	実習	ワックスアップの練習をする。
14	修復⑩	実習	ワックスアップの練習をする。
15	修復⑪	実習	ワックスアップの練習をする。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎 I Basic Training of Dental Carving I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
		単位	2	(コマ数)		曜日/時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験豊富な教員が、現在の業界動向も交えた解剖学の知識を、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用して授業を行う。						
目的	歯科技工物の製作に必須である、基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	歯型彫刻に必要な器材の正しい使用方法を反復練習を通じて習得し、指定した歯種の面取りを手順に沿って規定時間内に製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 歯の見本模型や実習帳を確認しながら、指定時間内に指定する歯種を彫刻することができる。 見本模型などを見ないで、指定時間内に指定する歯種のデッサンができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習： 毎日決めた時間内にデッサンをして大まかな形を覚え、彫る練習を すると比較的上達が早くなるので、推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	46レベルチェック(面取り)	実習	基礎授業を振り返り、見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をすることができる。
2	46の主溝・荒彫り	実習	<ul style="list-style-type: none"> 下顎第一大臼歯のデッサンを描き、特徴を3つあげる。 下顎第一大臼歯の特徴を再現することができる。 切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持ち、指の支点を作ることができる。
3	46の主溝・荒彫り	実習	<ul style="list-style-type: none"> 下顎第一大臼歯の特徴を再現することができる。 切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持ち、指の支点を作ることができる。
4	46の仕上げ彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> 下顎第一大臼歯の特徴を再現することができる。 エバンスを正しく持ち、指の支点を作ることができる。
5	46の仕上げ彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> 下顎第一大臼歯の特徴を再現することができる。 エバンスを正しく持ち、指の支点を作ることができる。
6	11面取り彫刻 13角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 見本模型の寸法を技工ノギスで計測をする。
7	11荒彫り 13角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら荒彫りをする。 模刻する。
8	11仕上げ彫刻 13角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 外形の細部を形成する。(デモンストレーションを見ながら進める)。
9	13面取り彫刻 14角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 模刻する。
10	13レベルチェック(面取り) 14角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> 見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をする。 模刻する。 達成度を確認する。
11	13荒彫り 14角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら荒彫りをする。 模刻する。
12	13仕上げ彫刻 14角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 外形の細部を形成する。(デモンストレーションを見ながら進める)。 模刻する。
13	14面取り彫刻 14角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 模刻する。
14	14荒彫り 14角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら荒彫りをする。 模刻する。
15	14仕上げ彫刻 14角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 外形の細部を形成する。(デモンストレーションを見ながら進める)。 模刻する。

16	16面取り彫刻 16角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 ・模刻する。
17	16面取り彫刻 16角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 ・模刻する。
18	16レベルチェック(面取り) 16角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をする。 ・模刻する。 ・達成度を確認する。
19	16荒彫り 16角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・形態の特徴を把握しながら荒彫りをする。 ・模刻する。
20	16仕上げ彫刻 16角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・外形の細部を形成する(デモンストレーションを見ながら進める)。 ・模刻する。
21	16レベルチェック(仕上げ彫刻)	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・見本模型と実習帳を確認しながら個人で仕上げ彫刻をする。 ・達成度を確認する。
22	11レベルチェック(面取り)	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をする。 ・達成度を確認する。
23	13レベルチェック(面取り)	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をする。 ・達成度を確認する。
24	46面取り彫刻 46角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 ・模刻する。
25	46面取り彫刻 46角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 ・模刻する。
26	46レベルチェック(面取り) 46角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をする。 ・達成度を確認する。
27	16荒彫り 16角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・形態の特徴を把握しながら荒彫りをする。 ・模刻する。
28	16仕上げ彫刻 16角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 ・外形の細部を形成する(デモンストレーションを見ながら進める)。 ・模刻する。
29	16レベルチェック(仕上げ彫刻)	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・見本模型と実習帳を確認しながら個人で仕上げ彫刻をする。 ・達成度を確認する。
30	試験形式で練習の成果を確認する 各自で歯種を決定	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・指定した時間内に完成させ、完成度を確認する。 ・切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持ち、指の支点も作ることができる。 ・練習で気づいた、製作のコツを記録する。

科目名 (英)	歯科技工実習総合 I Training of Dental Technology I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	チーム歯科医療の一員であることを確認するために、各科目を通じて学んだことを振り返り、歯科技工士としての役割を認識する。						
科目概要	チーム歯科医療の一員としての役割を、歯科衛生士科や歯科技工士科2年生との実習を通じて確認できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・技工士科2年生の実習を見学し、技術習得に必要な行動目標を決めることができる。 ・指定課題について、自ら課題を設定し、到達度を記述することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートの評価を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学・有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習： 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	型取り体験、模型製作	実習	自身の口腔内の型取りを体験し、取った型に石膏を流して口腔内模型を製作する。
2	型取り体験、模型製作	実習	自身の口腔内の型取りを体験し、取った型に石膏を流して口腔内模型を製作する。
3	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯排列を試験形式で行う。
4	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯排列を試験形式で行う。
5	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯排列を試験形式で行う。
6	彫刻コンテスト	実習	指定された部位の歯型彫刻を、コンテスト形式で行う。
7	彫刻コンテスト	実習	指定された部位の歯型彫刻を、コンテスト形式で行う。
8	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、人工歯排列を試験形式で行う。
9	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、人工歯排列を試験形式で行う。
10	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻を試験形式で行う。
11	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻を試験形式で行う。
12	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯配列、歯型彫刻を試験形式で行う。
13	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯配列、歯型彫刻を試験形式で行う。
14	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯配列、歯型彫刻を試験形式で行う。
15	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯配列、歯型彫刻を試験形式で行う。

科目名 (英)	インターンシップ I Internship I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	演習		有	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8		曜日/時間
講師紹介	歯科技工士の教員が、様々な歯科技工士就業施設で働いている方々と連携し、将来像を明確にできるように、歯科業界の情報提供やサポートをしていく。						
目的	仕事と職場についてより理解し、自身の将来の目標設定の足掛かりとするために、校内では体験することのできない臨床現場の見学を行う。						
科目概要	日本における代表的な歯科技工士就業施設の見学を通して、歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を設定し、実践することができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を発見し設定することができる。 ・課題を設定した後、実践することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートを100点満点として評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	就職活動サポートブック(本校オリジナル教材)			事前事後 学習と その内容	訪問する施設情報を事前に調べておくと、見学時に自身が知りたい情報を入手できる。所要時間は5分から10分程度。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	レポート作成時に必要な写真を撮影しておく。その際には、様々な施設見学をするため撮影可能か確認を取る。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工所見学準備	演習	・見学について心構え等の説明会を行う。
2	歯科技工所見学①	演習	・デジタル歯科技工に特化した歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
3	歯科技工所見学①	演習	・デジタル歯科技工に特化した歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
4	歯科技工所見学準備	演習	・見学について心構え等の説明会を行う。
5	歯科技工所見学②	演習	・大手の歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
6	歯科技工所見学②	演習	・大手の歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
7	歯科材料メーカー見学	演習	・歯科材料メーカーの見学を通して将来の目標設定をする。
8	歯科材料メーカー見学	演習	・歯科材料メーカーの見学を通して将来の目標設定をする。

科目名 (英)	国際社会・文化 I International community and culture I	年次	1	選択必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	土 / 1~4限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連付けて歯科技工士の業務内容や、歯科技工に必要な知識についてその概要を教授する。						
目的	世界で活躍できる人材となるために、世界経済、プレゼンテーション、立ち振る舞いについて身につける。 また、自国と日本とをつなぐ架け橋として、歯科技工について学んだことを世界に向けて発信できる力を習得する。						
科目概要	アジア歯科医療の高度化を担う人材となることを目指し、まずは身近な国際社会となる留学生と共同で課題設定と演習を行い、多国籍文化について記述できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歯科事情・金融・働くことについて関する知識を深める。 プレゼンテーション資料(パワーポイント)を完成させる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験「パワーポイント」を80点、レポート「振り返りシート」を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	特になし		事前事後 学習と その内容		母国の歯科事情、社会的背景、働くということについて事前に調べておくと、積極的に授業に参加できる。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	特になし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	世界の歯科事情、金融、働くことについて	演習	<ul style="list-style-type: none"> 母国の歯科事情、金融、働くということについて調べる。 調べたことをまとめる。
2	働く為に求められること 必要なこと	演習	<ul style="list-style-type: none"> 働くために求められること。その為に必要なことについて調べる。 調べたことをまとめる。
3	パワーポイント作り	演習	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントの作り方の説明をする。 パワーポイントの作成をする。
4	パワーポイント作り	演習	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントの作成をする。 発表についての説明をする。
5	発表	演習	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントを使って発表をする。 話し方、態度、立ち居振る舞いについて実践する。
6	発表	演習	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントを使って発表。 話し方、態度、立ち居振る舞いについて実践する。
7	聴講	演習	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の発表の聴講をする。
8	聴講	演習	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の発表を聴講し、振り返りを行う。

科目名 (英)	総合歯科技工入門	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	演習		有		
		時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	2			曜日/時間	月 / 1・2限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な補綴物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	陶材焼付鑄造冠の陶材操作および金属床フレームワークのワックスアップを行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・金属床フレームワーク製作の注意点を理解し作業できる。 ・金属焼付け陶材操作の注意点を理解し築盛、焼成、形態修正できる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 実技試験として「作品の評価」を100点満点として評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学/歯冠修復技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習： 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	陶材焼付け面の表面処理	演習	焼付フレームの表面処理、ディギャッシングを行う。
2	オベーク陶材の築盛、焼成	演習	焼付けフレームにオベーク陶材を築盛して、焼成する。
3	歯冠用陶材の築盛、焼成	演習	デンチン陶材を築盛、焼成する。
4	歯冠用陶材の築盛、焼成	演習	エナメル陶材を築盛、焼成する。
5	歯冠用陶材の追加築盛、焼成	演習	不足部分に陶材を追加焼成する。
6	歯冠用陶材の形態修正	演習	完成の形態にあわせて切削する。
7	歯冠用陶材の表面仕上げ	演習	陶材部の表面を仕上げる。
8	グレージング	演習	グレージングを行う。
9	金属床フレームの設計、前処理、複印象	演習	金属床フレームの設計～前処理～複印象の流れを理解する。
10	耐火模型材の注入	演習	リン酸塩系埋没材の取り扱い、表面処理を理解する。
11	ワックスアップ①	演習	連結部分のワックスアップを行う。
12	ワックスアップ②	演習	連結部分、スケルトン、支台装置のワックスアップを行う。
13	ワックスアップ③	演習	スケルトン、支台装置のワックスアップを行う。
14	ワックスアップ④	演習	ワックスアップの仕上げ、を行う。
15	ワックスアップ完成	演習	外フィニッシングラインの付与を行う。

科目名 (英)	スポーツ歯学入門 Introduction to Sports Dentistry	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	関根 陽平
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火・水 / 1~4限
講師紹介	医学博士、歯学博士、鍼灸師であり、スポーツデンティストとして様々なスポーツ現場にてアスリートのサポートを行っている「みはる矯正歯科」院長。スポーツ現場で展開される「スポーツ」と「歯科」の新しい関係を紹介しします。						
目的	近年注目されている「スポーツ」×「歯科」の関係を学び、基本的なカスタムメイドマウスガード製作の技術を習得する。						
科目概要	スポーツデンティストによる講義からスポーツと歯科の関係を学び、実習においては自身の口腔内模型を用いてカスタムメイドマウスガードを製作する。スポーツマウスガードは安全にスポーツを楽しむことのできる装置であることを、製作と装着体験を通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツと歯科の関係を説明することができる。 ・マウスガード製作に必要な模型の製作方法とマウスガードの製作について説明することができる。 ・カスタムメイドマウスガードの基本的な製作方法に沿って、製作することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートの評価を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	特になし			事前事後 学習と その内容	事前学習： インターネットを使用して日本スポーツ歯科医学会ホームページを確認する。(20分程度必要と想定される)		
参考図書	授業内にて紹介する。				事後学習： インターネットを使用してマウスガード義務化競技、使用ルール等の確認を行い、教養を深める。(30分程度必要と想定される)		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 歯科技工士が作るマウスガード	演習	授業の概略を紹介する。授業の流れと学習内容を確認する。また、市販品のマウスガードと歯科医師と製作するマウスガードとの違いに気づくことができる。
2	「スポーツ」×「歯科」について	演習	スポーツ歯科医学概論についてスポーツデンティストから講義を受ける。
3	マウスガード製作にむけて 口腔内模型トリミング	演習	自身の口腔内模型にてマウスガード製作に必要なトリミングを行う。
4	マウスガード製作むけて 咬合器装着	演習	自身の口腔内模型を咬合器装着する。
5	マウスガード製作を行う①	演習	口腔内模型に製作する外形線を記入する。
6	マウスガード製作を行う②	演習	加圧形成器を使用して模型に材料をプレスする。
7	マウスガード製作を行う③	演習	プレスされたシート材料をヒートカッターでカットする。
8	マウスガード製作を行う④	演習	形態修正を行い、口腔内に装着しても違和感の少ない装着感にする。

科目名 (英)	デジタル歯科技工入門 Introduction to Digital Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	金 / 1・2限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験豊富な教員が、現在の業界動向も交えたデジタル歯科の知識を、ICTを積極的に活用して授業を行う。						
目的	CAD操作をするために、必要なPCの基本操作を身につけ、画面を用いた歯の設計方法を理解し、デジタル技術を習得する。						
科目概要	アナログ技工とデジタル技工の違いを知り、印象採得から歯科技工物完成までの一連の流れを理解する。臨床現場で使用している歯科専用ソフトウェア(3Shape)を使用し、クラウンとデンチャーの設計(デザイン)の基本操作を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウン、デンチャーを設計することができる。 ・Word、Excel、PowerPointのいずれかを用いてレポートの作成をすることができる。 ・スクリーンショットの方法を習得しレポートの作成を行うことができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートを100点満点として評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	特になし			事前事後 学習と その内容	事前学習: 情報技術基礎で学んだことを復習しておくとしてレポート作成に活かせる。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: メモや写真、記録したものをを用いて次回の実習に活かせるよう復習しておく		
特記事項	設計の各ステップをスクリーンショットや写真に収めておくとしてレポート作成時に資料として使用できる。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	デジタル歯科について	演習	・日本デジタル歯科学会常任理事の先生を講師に招き、デジタル歯科の基礎や最新情報を聴講する。
2	16クラウン設計①	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・3Shapeの使用方法を習得する。 ・マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。 ・マージンラインの合わせ方を習得する。 ・彫刻ツールの使い方を習得する。
3	16クラウン設計②	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業の振り返りをする。 ・解剖学的な特徴を捉えたクラウンの設計方法を習得する。
4	アナログ技工とデジタル技工の違い 操作手順	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログ技工とデジタル技工の診療手順や材料の違いを説明する。 ・デジタル技工の操作手順を実際の機材を見ながら習得する。
5	デンチャー設計①	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・3Shapeの使用方法を習得する。 ・マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。 ・マージンラインの合わせ方を習得する。 ・彫刻ツールの使い方を習得する。
6	デンチャー設計②	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業の振り返りをする。 ・排列後を想定したデンチャーの設計方法を習得する。
7	3Dプリンター	演習	・3Dプリンター出力までの操作手順、注意事項をデモンストレーションを見て理解する。
8	レポート作成	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウンかデンチャーの製作手順、注意事項についてのレポートを作成する。 ・表紙には「題名、出席番号、氏名」を必ず記載する。用紙:A4版、横書きで提出する。 ・スクリーンショットの使い方を習得する。

科目名 (英)	外国語 English for Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	株式会社セイガンスピークより講師派遣
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木 / 3・4時限
講師紹介	日本で英語指導経験を持つネイティブスピーカーの教員が、実際に会話を交わしながらあいさつや質問の方法について、 実用英会話を交え授業を行う。						
目的	英語で簡単な業界コミュニケーションが図れるようにするために、歯科業界における日常英会話、トラベル英会話を習得する。						
科目概要	様々な場面や状況に応じた英会話を、リスニングやスピーキングを行いながら、表現方法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語で挨拶や自己紹介を列記できる。 学んだ英語を使用し状況に応じて選択することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容の確認し、わかる範囲で自習学習を行う。 事後学習: 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けて復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	英和辞典・和英辞典は各自で用意すると理解が深まる。 毎回の授業時に授業プリントを配付。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	あいさつー1	講義	英語でのコミュニケーションをとることができる。
2	あいさつー2	講義	初対面の人とのあいさつや、知人とのあいさつなどをすることができる。
3	ホテルで急病になったときー1	講義	業務で海外訪問した際に、病気になったときの会話をすることができる。
4	ホテルで急病になったときー2	講義	自分の症状を説明することができる。 医師からの指示や痛みに関する質問に答えることができる。
5	ショッピング	講義	ショッピングの英会話ができる。 道順を尋ねる、物を探すなど、色々な表現方法ができる。
6	海外の展示会に参加する	講義	出入国に関する手続きの順序を理解することができる。 ホテルのチェックインから会場までのタクシー移動についての会話ができる。 展示会の受付から、ブースでの質問方法について理解できる。
7	まとめ	講義	1回～6回までのまとめ講義を行う。
8	試験解説	講義	試験についての解説。

科目名 (英)	歯科臨床基礎 Fundamentals of Clinical Dentistry	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	金 / 2・3限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科保存治療に不可欠な仮歯、土台、個歯トレーの製作技術を習得する。						
科目概要	歯科保存治療に不可欠な、仮歯の製作、一度は機能を失った歯を再利用を可能にするための歯の土台製作、形態・寸法・表面精度に優れた印象採得を可能にするための個歯トレー製作など、製作を通じてその要点を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テンポラリークラウンの製作工程を理解する。 ・個歯トレーの製作工程、使用材料の特性を理解し製作することができる。 ・メタルコアの製作工程を理解し製作することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポート「授業日誌」を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
特記事項	・配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず持参すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	臼歯メタルコアの製作①	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストを採得することができる。 ・維持力を調整することができる。 ・スプルーの植立位置を覚える。
2	臼歯メタルコアの製作②	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・スプルーの植立位置を覚える。 ・鑄造操作が一人で行える。 ・鑄造のタイミングを理解する。
3	臼歯メタルコアの製作③	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・鑄造操作が一人で行えることと、鑄造のタイミングが分かる。 ・軸面の調整方法を習得する。
4	臼歯メタルコアの製作④	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・鑄造操作が一人で行えることと、鑄造のタイミングが分かる。 ・軸面の調整方法を習得する。
5	テンポラリークラウンの製作 (デュプリケート法)	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・個歯トレーの製作手順を覚える。 ・スペーサーを理解し付与する。 ・天蓋を理解し付与する。
6	テンポラリークラウンの製作 個歯トレーの製作	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・個歯トレーの製作手順を覚える。 ・スペーサーを理解し付与する。 ・天蓋を理解し付与する。
7	テンポラリークラウンの製作 個歯トレーの製作	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・天蓋を理解し付与する。 ・個歯トレーの形態修正の仕方を覚える。
8	テンポラリークラウンの製作 個歯トレーの製作	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・天蓋を理解し付与する。 ・個歯トレーの形態修正の仕方を覚える。

科目名 (英)	歯の解剖学基礎Ⅱ Dental Anatomy-BasisⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鯨岡 聡子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科医師であり、大学教員でもある臨床経験豊富な講師が、臨床現場で役立つ解剖学の知識を、事例を交えながら授業を行う。						
目的	患者の体に馴染む、機能的な義歯を製作できる歯科技工士になるために、口腔機能、特に頭蓋骨の構造や咀嚼機能に関する基本的な知識を習得する。						
科目概要	頭の骨や筋肉、舌や唾液といった、食事や会話に必要な器官の名称や特徴について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 舌骨上筋について、名称や特徴について説明することができる。 頭蓋骨、上顎骨、上顎骨、口蓋骨、側頭骨、蝶形骨について、その特徴を説明できる。 口蓋、唾液腺、舌筋と舌乳頭についてその特徴を説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に(楽しく)受けることができる。この時間に10分程度要することが想定される。事後学習の成果確認を目的に、毎授業の最初小テストを行う。この準備に40分程度要することが想定される。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	舌骨上筋について	講義	前期で学んだ咀嚼筋に引き続き、食事や会話で使われる筋肉について理解する。口を開くときに使う筋肉の名称と位置、その動きについて理解する。
2	頭蓋骨の概説について	講義	頭蓋骨は多くのパーツから構成されている。歯科技工に関する代表的な骨の名称と位置について理解する。
3	下顎骨について	講義	食事や会話のときに動く骨の構成について理解する。特に歯科技工に必要なランドマークとなる名称と位置について理解を深める。
4	上顎骨・口蓋骨について	講義	下顎骨と異なり、上顎は複数の骨で構成されている。どのような骨で構成されているかを知り、特に歯科技工に必要なランドマークとなる名称と位置について理解する。
5	側頭骨・蝶形骨について	講義	側頭骨と蝶形骨は咀嚼筋を動かす神経にも関係する重要な骨である。これらの骨の特徴を理解する。
6	口腔と口蓋、唾液腺について	講義	口腔内にある他の器官の名称とその機能について理解する。特に、食事に欠かせない唾液について、名称や機能について理解する。
7	舌、舌乳頭と舌筋について	講義	舌の各部の名称、味覚、舌の動き、それらに関係する神経について、その特徴を理解する。
8	7回目までの振り返り	講義	舌骨上筋から舌筋まで、7回の授業を振りかえり、その理解度を確認する。

科目名 (英)	顎口腔機能学基礎 Stomatognathic Function Science Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	水上 泰宏
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士であり、整体師の資格もある臨床経験豊富な講師が、臨床現場で役立つ顎口腔機能学の知識を、事例を交えながら授業を行う。						
目的	生体として機能する歯や義歯を製作するために、顎や顎の動き、口に関する基本的な知識の習得をする。						
科目概要	下顎運動の概要を学び、歯科技工物の製作に必要な、咬合に関する基礎知識を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・顎口腔系の形態・機能について理解することができる。 ・下顎運動について説明することができる。 ・咬合器について使用目的・手順、調節方法、フェイスボウの取り扱いを理解することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習： 毎回の授業最初に、前回の講義内容の確認テストを行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	顎口腔系の形態について	講義	・物を食べる時に動く筋肉や顎の構造、運動について理解する。
2	顎口腔系の機能と下顎位について	講義	・顎や口腔内の機能について理解する。 ・歯を失った場合の口の中の変化、顎の位置や特徴について説明することができる。
3	側方運動について	講義	・食べ物を噛んでいる(横に動いてる)時の顎の動きや顎関節の形態について理解する。
4	前方運動について	講義	・顎を前に出した時の運動や上下顎の前歯の動きについて理解する。
5	開閉運動と下顎の限界運動について	講義	・口を開けたり閉じたりする時の顎の位置や動き、顎の限界運動について理解する。 ・入れ歯を作る際の中心や顎の高さを決定する時の顎の位置について理解する。
6	咬合器について	講義	・咬合器を使用する目的や、構造、種類、特徴について理解する。
7	半調節性咬合器の取り扱いについて	講義	・半調節性咬合器の構造や特徴、模型の装着方法について理解する。
8	後期定期試験とその解説	講義	・今までの学びに対する理解度を設問を通じて確認する。

科目名	顎口腔機能学実践 (英) Training of Stomatognathic Function Science	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月 / 1・2限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	生体として機能する技工物を製作するために、フェイスボウを使った半調節性咬合器の取り扱い方法を習得をする。						
科目概要	患者役と歯科医師役に分かれ顔弓記録と咬合採得を体験し、顔弓記録が歯科技工の仕事にどのように関わることを知る。顔弓記録を用いて、自分の口腔内模型を咬合器に装着し、手順を理解する。さらに、チェックバイトを使って咬合器の顎路調節ができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を追ってフェイスボウを使用することができる。 ・フェイスボウを使用した咬合器の装着ができる。 ・前方、後方の基準点を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>レポート(提出課題)を100点満点として評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布プリント			事前事後 学習と その内容	事前学習: 指示があったところまで、実習を進めておく。 事後学習: 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず持参すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔内模型の製作①	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・台付を行い平行模型を製作する。 ・平行模型について理解する。 ・台付するための石膏操作(石膏の硬さ、石膏の盛り方)を習得する。
2	口腔内模型の製作②	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・トリマーの操作方法を習得する。 ・模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削る。 ・ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整える。
3	口腔内模型の製作③	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・トリマーの操作方法を習得する。 ・模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削る。 ・ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整える。
4	咬合器の0セッティング フェイスボウトランスファー①	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・半調節性咬合器の矢状顎路角15度、側方顎路角0度に合わせてセッティングをする。 ・フェイスボウトランスファーの使用方法について理解する。 ・2～3人1組になりフェイスボウを用いて、前方、後方の基準点について理解する。
5	咬合器の0セッティング フェイスボウトランスファー②	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・半調節性咬合器の矢状顎路角15度、側方顎路角0度に合わせてセッティングをする。 ・フェイスボウトランスファーの使用方法について理解する。 ・2～3人1組になりフェイスボウを用いて、前方、後方の基準点について理解する。
6	フェイスボウトランスファー③ 咬合器装着	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスボウを用いて上顎の模型を咬合器に装着する。 ・フェイスボウを半調節性咬合器に装着方法を習得する。 ・下顎の口腔内模型を咬頭嵌合位で装着する。
7	チェックバイト・顎路の調節	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前方咬合位でのチェックバイトを採得する。 ・前方チェックバイトを使った矢状顎路角を調整する。 ・側方顎路角を計算式から算出し、咬合器の側方顎路角を調節する。
8	咬合接触・レポート制作	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合器に装着された上下顎模型を運動させ、咬合接触の状態(咬合様式・運動路・アンテリアガイダンス・ABCコンタクト)を観察する。 ・レポートを制作する。

科目名 (英)	歯科理工学基礎Ⅱ Dental Materials Science-BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2	(コマ数)		曜日・時間	木 / 2限
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院で材料の研究をしている講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	安全で、精度の良い歯科技工物を製作するために、歯科材料(金属・ワックス・埋没材)の性質や取り扱い方についての知識を習得する。						
科目概要	ワックスや埋没材について種類と性質を様々な視点から理解し、理論に基づいた取り扱いができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい金属の取り扱いについて理解し、精度良くつくれるように知識を身につけることができる。 ・正しいワックスの取り扱いについて理解し、精度良くつくれるように知識を身につけることができる。 ・正しい埋没材の取り扱いについて理解し、精度良くつくれるように知識を身につけることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業では、前回の復習を10問程度の小テストで行う。事前学習としては、1実習を振り返り使用材料や取り扱いの方法を確認しておくが良い。また、実習で使用していない材料については教科書等を読み、材料名などを事前に覚えておくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	熱処理	講義	金属材料の硬化熱処理や軟化熱処理について、図や表を活用して理解する。金属材料と取り扱い方法を知り、適切な熱処理ができるようになる。
2	金属の加工	講義	金属の加工と加工硬化について、図や表を活用して理解する。クラスプや矯正ワイヤーの特性を知ること、適切な加工をすることができるようになる。
3	歯科材料の機械的性質①	講義	材料試験を行った際に描かれる「応力-ひずみ曲線」をみながら、材料の性質について理解する。歯科材料について数値から性質を読み取ることができるようになる。
4	歯科材料の機械的性質②	講義	材料の硬さや強さを評価する各種試験方法について、図や表を活用して理解する。歯科材料について数値から性質を読み取ることができるようになる。
5	歯科材料の物理的性質	講義	材料の熱に対する性質を中心に、図や表を活用して理解する。歯科材料について数値から性質を読み取ることができるようになる。
6	歯科材料の化学的性質	講義	材料の化学的性質について、図や表を活用して理解する。歯科材料について腐食や接着の知識を基に技工物を製作することができるようになる。
7	6回までの講義振り返り	講義	1回～6回の内容を試験形式で確認し、解説を行う。
8	鑄造原型・ワックス	講義	ロストワックス法で使用する原型(ワックス)について、技工物をつくる上で理解しておくべき性質や成分について知り、技工物製作時に役立てることができる。
9	スプルー・湯だまり・エアレント・埋没操作	講義	鑄造時の失敗を防止するために、鑄造欠陥の防止策や埋没時の注意事項について、図や表を活用して理解する。
10	埋没材①	講義	精度の良い鑄造体を得るために、埋没材の所要性質や種類について、図や表を活用して理解する。
11	埋没材②	講義	精度の良い鑄造体を得るために、埋没材の所要性質や種類について、図や表を活用して理解する。
12	鑄造の基礎	講義	精度の良い鑄造体を得るために、金属を鑄造することによって起こる「鑄造収縮」や凝固のプロセスについて、図や表を活用して理解する。
13	まとめ② (ワックス～鑄造の基礎)	講義	ワックスから鑄造の基礎まで、今まで実施した授業内容を振り返り理解度を確認する。
14	後期まとめ	講義	「歯科理工学基礎Ⅱ」の内容について、今まで実施した授業内容を振り返り、プリントなどを用いながら知識の定着を確認する。
15	1学年まとめ	講義	1年次に履修した「歯科理工学Ⅰ、Ⅱ」の内容について、プリントなどを用いながら総合的な知識の定着を確認する。

科目名 (英)	有床義歯技工学基礎Ⅱ Denture Techniques-BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	安池 和香葉
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	水 / 2限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院、歯科技工所、材料メーカーでの実務経験を有している現役の歯科技工士が授業を行う。						
目的	部分床義歯を中心に、有床義歯製作に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	全部床義歯および金属床義歯の特性、印象方法、技工操作の手順を生体の変化に関連付けて理解する。実習授業においてそれらの知識を活用できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 全ての歯が抜けた口腔内の変化を知り、全部床義歯の重要性、構成要素、製作に関する手順、注意点を理解する。 レジン床義歯と比較した金属床義歯の特性、製作手順、注意点を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容の確認し、わかる範囲で自習学習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けて復習を行う。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生体についての基礎知識	講義	前期の同テーマを振り返り、全部床義歯で必要となる基礎知識の理解を深める。
2	全部床義歯の特性	講義	全部床義歯について、基礎的な知識を知ることができる。
3	全部床義歯の製作順序	講義	全部床義歯が完成するまでの製作手順を知ることができる。
4	咬合採得	講義	咬合採得とは何かを知り、実際の手順を理解する。 咬合採得後の咬合床に表されるもの、標準線を理解する。
5	人工歯排列(前歯部)	講義	全部床義歯の前歯部の排列を理解する。 人工歯の形態を決める基準は何かを知ることができる。
6	人工歯排列(臼歯部)・歯肉形成	講義	臼歯部の理想的な排列を理解する。 クリステンセン現象、ニュートラルゾーン、パウンドラインについて理解する。 歯肉形成の一般的な注意事項、前歯部と臼歯部の注意点の違いについて理解する。
7	人工歯排列 (担当:下平講師)	講義	人工歯排列についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。
8	試験形式で7回までの確認	講義	1回～7回の内容を試験形式で確認し、解説を行う。
9	全部床義歯の埋没・重合	講義	全部床義歯のフラスコ埋没の各方法、注意事項について理解する。 部分床義歯のフラスコ埋没との違いを理解する。
10	全部床義歯の咬合器への再装着・削合	講義	咬合器再装着の各方法、選択削合、自動削合の概略を理解する。
11	削合 (担当:下平講師)	講義	削合についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。
12	義歯の目的別による分類	講義	義歯の使用目的による分類を理解する。 即時義歯について利点欠点、製作法を理解する。
13	印象・模型製作	講義	印象採得から模型製作までの流れを理解する。
14	金属床義歯	講義	金属床義歯について理解する。 ノンクラスプデンチャーについて理解する。 オーバーデンチャーについて理解する。
15	1年間の振り返り	講義	1年次に受講した有床義歯に関する講義を振り返り、定期試験に向けてまとめを行う。

科目名 (英)	有床義歯基礎実習 Denture Techniques	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
		単位	1			曜日・時間	火 / 1・2限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	レジン床部分床義歯が製作するために、維持装置、人工歯排列の技術を習得する。						
科目概要	片側中間欠損の模型を使用し、レジン床部分床義歯を製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑄造クラスプの製作ができる。 ・ 中間欠損部に合わせた、排列、歯肉形成ができる。 ・ 部分床義歯製作の流れを再確認し、部分床義歯を完成させることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 事後学習: 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	片側中間欠損義歯の製作⑤ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、耐火模型製作(ワックスバス)を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造鉤のワックスアップを行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、線鉤の屈曲を行う。
2	片側中間欠損義歯の製作⑥ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造鉤のワックスアップを行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、線鉤の屈曲を行う。
3	片側中間欠損義歯の製作⑦ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造鉤の埋没を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、線鉤の屈曲を行う。
4	片側中間欠損義歯の製作⑧ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造鉤の鑄造を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造レストのレジンアップを行う。
5	片側中間欠損義歯の製作⑨ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造レストの埋没を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造鉤の鑄造を行う。
6	片側中間欠損義歯の製作⑩ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造レストの鑄造を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造鉤の研磨を行う。
7	片側中間欠損義歯の製作⑪ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造レストの研磨を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、鑄造鉤の固定を行う。
8	片側中間欠損義歯の製作⑫ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、人工歯排列を行う。 両側複合欠損の製作を振り返り、歯肉形成を行う。
9	片側中間欠損義歯の製作⑬ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、歯肉形成を行う。 フラスコへの一次埋没を行う。
10	片側中間欠損義歯の製作⑭ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	フラスコへの一次埋没を行う。 フラスコへの二次埋没を行う。
11	片側中間欠損義歯の製作⑮ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	埋没した部分床義歯の流蠟を行う。 埋没した部分床義歯の填入準備を行う。
12	片側中間欠損義歯の製作⑯ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	埋没した部分床義歯の填入を行う。
13	片側中間欠損義歯の製作⑰ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	埋没した部分床義歯の填入を行う。
14	片側中間欠損義歯の製作⑱ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	部分床義歯の掘り出し・咬合調整・形態修正を行う。
15	片側中間欠損義歯の製作⑲ 片側欠損模型【PDW-1】	実習	部分床義歯の研磨を行い、完成させる。

科目名 (英)	歯冠修復技工学基礎Ⅱ Restorative Dentistry Basic Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数 (コマ数)	15		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			曜日・時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	顎の動きや口の周りの筋肉と調和する補綴物を作るための要件や製作方法を口腔内で使用される材料と関連付けて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジの構成要素、種類や特徴、部分床との違いなどについて説明することができる。 ・テンポラリークラウンについて説明することができる。 ・全部被覆冠、部分被覆冠についての特徴や分類を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習： 毎回の授業最初に、前回の講義内容の確認テストを行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	テンポラリークラウン	講義	・使用目的、製作方法の種類・分類について理解する。 ・製作方法の特徴について理解する。
2	間接法(教授講義)	講義	歯冠修復物の製作について前期から今までの復習し振り返る。
3	間接法まとめ	講義	・歯冠修復物の製作順序、精密印象法の種類と特徴について振り返り理解を深める。 ・作業用模型、蝟型～埋没について振り返り理解を深める。 ・支台歯内面・外面の適合、鑄造収縮の補償について理解を深める。
4	部分被覆冠②	講義	・インレーの特徴、窩洞形態、材料による分類について理解する。 ・窩縁斜面の目的、歯面数による分類について理解する。
5	ブリッジ①(概要)	講義	・ブリッジの構成、種類について理解する。 ・支台装置の要件、種類について理解する。 ・ブリッジの利点について理解する。
6	ブリッジ②(基底面形態の分類)	講義	・自浄作用による分類について理解する。 ・ポンティック(自浄型、半自浄型、無自浄型)の特徴と使用部位について理解する。 ・審美性による分類について理解する。
7	ブリッジの概要と種類(教授講義)	講義	ブリッジの種類、特徴、支台装置の要件と種類について理解する。
7.5	理解度チェック	講義	テンポラリークラウン、間接法、部分被覆冠、ブリッジの概要、基底面形態の分類について理解度の確認を設問し行う。
9	ブリッジ(ポンティック、連結)	講義	・力学的条件、咬合圧の軽減方法について理解する。 ・基底面材料の生物学的条件、衛生的条件について理解する。 ・ワンピースキャスト法、鑑付け法の利点について理解する。
10	ブリッジの連結について(教授講義)	講義	・連結部の要件、種類、連結方法について理解する。
11	レジン前装金属冠①	講義	・レジン前装金属冠の特徴について理解する。 ・レジンの維持装置、維持装置の種類、レジンの重合方法について理解する。 ・オペークの目的、メタルフレームの形態について理解する。
12	レジン前装金属冠②	講義	・歯冠色レジン、未重合層について理解する。 ・ハンドル、リムーバルノブの目的について理解する。 ・前装金属冠の製作順序について理解する。
13	ブリッジ(半固定性連結)	講義	・半固定性連結の構成要素について理解する。 ・半固定性連結、可撤性連結の特徴について理解する。 ・キー&キーウェイ、アタッチメントの特徴について理解する。
14	個人・個歯トレー	講義	・個人トレーの目的、利点、設計について理解する。 ・個歯トレーの目的、種類、製作順序について理解する。
15	振り返り	講義	ブリッジのポンティックの種類・連結方法、レジン前装冠、半固定性ブリッジ、個人・個歯トレーについて振り返る。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅳ Basic Training of Restorative Dentistry IV	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日・時間	火 / 1,2限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	鑲付けの基本的な知識や技術を身につけ、下顎ブリッジとレジン前装冠を製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鑲付けする為に埋没操作を理解し埋没することができる。 ・鑲付けの炎の作り方、埋没材への当て方を理解し実践することができる。 ・前歯部のワックスアップを完成することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： 指示があったところまで、実習を進めておく。 事後学習： 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 ・実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。 						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	下顎作業模型製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・複数歯・欠損部のダウエルピン植立方法を習得する。 ・臼歯のトリミング方法を習得する。
2	咬合器装着・歯型トリミング	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジ模型の咬合器装着方法を習得する。 ・臼歯のトリミング方法を習得する。
3	ワックスアップ①	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD冠を歯型に適合させる方法を習得する。 ・ポンティック部のワックスアップの手順を覚える。 ・歯列に調和させることを理解する。
4	ワックスアップ②	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD冠を歯型に適合させる方法を習得する。 ・ポンティック部の形態を覚える。 ・ポンティック部の窓あけを覚える。
5	ワックスアップ③	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・連結部の分割方法を習得する。 ・エアプントを付与する。 ・ブリッジの埋没手順を覚える。
6	鑄造・研究模型製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・研究模型の製作方法を習得する。 ・ブリッジの鑄造方法を覚える。
7	鑄造・研究模型製作	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・研究模型の製作方法を習得する。 ・ブリッジの鑄造方法を覚える。
8	鑲付け準備①	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジにバーとスティッキーワックスを使用した固定方法を習得する。 ・埋没方法を習得する。 ・石英埋没材の特徴を理解する。
9	下顎Br鑲付け①	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・鑲付けの操作方法を習得する。 ・アンチフラックスについて理解する。 ・鑲付け時の炎の作り方を習得する。
10	下顎Br鑲付け②	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・鑲付けの操作方法を習得する。 ・アンチフラックスについて理解する。 ・鑲付け時の炎の作り方を習得する。
11	下顎Br研磨	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・基底面、連結部の研磨方法を習得する。 ・窓あけ部辺縁部の調整方法を覚える。
12	下顎Br研磨	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・基底面、連結部の研磨方法を習得する。 ・窓あけ部辺縁部の調整方法を覚える。
13	下顎Br・21レジン前装冠のレジン築盛	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・レジンの築盛手順を覚える。 ・オペークレジンの築盛方法を覚える。 ・レジンの重合方法を覚える。
14	下顎Br・21レジン前装冠の形態修正	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・レジンの築盛手順を覚える。 ・歯冠色レジンの築盛方法を覚える。 ・レジンの重合方法を覚える。
15	下顎Br・21レジン前装冠の研磨	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・レジンの研磨手順を覚える。 ・レジンの形態修正方法を覚える。

科目名 (英)	矯正歯科技工学総論 Principles of Orthodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐久間 優弥
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	水 / 1・2限
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院での臨床経験を活かし、矯正の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	矯正治療の概要及び技工用器具と機械、材料や技工の手技についての知識を習得する。						
科目概要	不正咬合の種類や矯正治療の手順を知り、各種不正咬合の治療を円滑に行うために用いる主要な矯正装置の特徴や製作方法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・矯正治療の概要を理解する。 ・各種不正咬合の治療において必要な矯正装置の構成、特徴を覚える。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学 (医歯薬出版株式会社)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業では、前回の復習を10分程度の小テストで行う。 事前学習としては、配布資料および教科書を確認し、わかる範囲 で自主学習を行う。 事後学習として、講義内の小テストに向けて復習を行うことを推奨 する。		
参考図書	なし						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	矯正歯科技工学概説	講義	・矯正治療の概要を理解し、本当に歯が動き乱れた歯が、綺麗になっていくことを確認する。
2	不正咬合 I	講義	・生体に見られる正常な咬合や歯の位置異常について理解する。
3	不正咬合 II	講義	・生体に見られる歯列弓の異常やアングルの分類について理解する。
4	矯正治療の進め方 I	講義	・矯正治療の進め方について理解する。
5	矯正治療の進め方 II	講義	・矯正治療の進め方について理解する。
6	まとめ演習 I	講義	・今回学んだ矯正治療について小テスト・まとめプリントを使用しながら振り返る。
7	まとめ演習 II	講義	・今回学んだ矯正治療について小テスト・まとめプリントを使用しながら振り返る。
8	定期試験と準備	講義	・総論全般を振り返る。 ・7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	矯正歯科技工実習 Practical Training of Orthodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	西山 輝
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木 / 2~4限
講師紹介	歯科技工士として矯正歯科技工所に勤務し技術を磨き、現在は矯正歯科技工所を経営して臨床経験も豊富にある講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	装置製作に必要な4つの操作ができるようになるために、各種矯正装置の役割や分類、構造、製作方法の知識と技術を習得する。 ①線屈曲の技法 ②自在ロー付けの技法 ③レジンの築盛法 ④矯正用レジンの研磨法						
科目概要	矯正技工の基本操作を身につけ、動的治療後に用いられる、ホーレーの保定装置を製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・矯正線の屈曲ができる。 ・矯正用レジンのふりかけ操作ができる。 ・矯正用レジンの研磨操作ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学 オリジナル実習帳			事前事後 学習と その内容	<ul style="list-style-type: none"> ・矯正装置の製作の実習帳を熟読し、日程ごとインストラクターが行うデモンストレーションの理解度が深まるように予習し準備する。 ・製作中にライターからチェックを受け、確認しながら進行する。 ・製作に遅れが出ないように注意し進める。 		
参考図書	なし						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	線屈曲トレーニング	実習	・通称オバQと言われる図形に矯正用線を屈曲することに挑戦し屈曲の基本を身につける。
2	接歯唇側線の屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
3	接歯唇側線の屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
4	接歯唇側線の屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
5	接歯唇側線の屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
6	単純鉤の屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ単純鉤を屈曲する。
7	単純鉤の屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ単純鉤を屈曲する。
8	単純鉤・アダムスのクラスプ屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ単純鉤とアダムスのクラスプを屈曲する。
9	アダムスのクラスプ屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせアダムスのクラスプを屈曲する。
10	アダムスのクラスプ屈曲	実習	・屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせアダムスのクラスプを屈曲する。
11	レジン築盛	実習	・唇側線、維持装置を固定し、床部に矯正用レジンを築盛する。
12	レジン築盛	実習	・築盛された床部をカーバイトバー等で形態修正する。
13	レジン研磨	実習	・床部をペーパーコーン等で表面部分をおおよそ滑らかする。
14	レジン研磨	実習	・表面部分がおおよそ平らになった床部をレーズを使い砂研磨する。
15	研磨・完成	実習	・床部を仕上げ研磨し、完成させ提出する。

科目名 (英)	小児歯科技工学総論 Principles of Pedodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田中光郎
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工学科 I 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火 / 2限
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院で小児歯科学の研究、診療、教育の経験豊富な講師が、小児歯科に関する様々な学会での業界動向も交えた授業を行います。						
目的	小児歯科で必要とされる「成長を予測した歯科技工装置」を製作するために欠かせない、子どもの成長発育に関する理論を習得する。						
科目概要	大人になったときに健全な永久歯列を獲得するためには乳歯が重要なポイントになることを、具体例を通じて理解する。矯正歯科との深い関連性がある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの歯と口腔に関する成長や発育について、説明することができる。 ・健全な永久歯列への生え変わりには、乳歯と永久歯列が大切であることを説明することができる。 ・7つの課題について、定義、その意義について説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工学教本 小児歯科技工学 (医歯薬出版株式会社)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業最初に小テストを行う。この小テストに10分程度要することが想定される。また、次回授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に(楽しく)受けることができる。 * 長期休暇や授業の進行状況に応じて別途課題を出題する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	小児歯科ではこのような治療をしています	講義	小児歯科と小児歯科技工は他の診療科目と様々な面で異なることを紹介する。大人の歯並びは子ども時代から作られることを知り、この科目での重要な考え方を理解する。
2	7つの課題を調査する	講義	「ヘルマンの歯齡」「アングルの分類」「生理的歯間空隙」「ターミナルプレーン」「リーウェイスペース」「みにくいアヒルの子の時代」「スキャモンの発育曲線」について示した項目に沿って調査する。
3	7つの課題、発表と情報共有	講義	調査を発表し、重要項目をクラス全体で共有する。
4	ヒトの成長と発育	講義	子どもは大人を単に小さくしたものではない。ヒトはどのように発育や成長をするのか、キーワードを用いて理解する。
5	乳歯と乳歯列の特徴	講義	最初の乳歯が生後半年から生え始め、20本生え揃うまでどのような変化や特徴があるのかを理解する。乳歯と永久歯との違いを理解する。
6	乳歯から永久歯への生え変わり	講義	乳歯が脱落しても後から永久歯がきれいに生え揃うメカニズムを紹介する。また、永久歯への生え変わりが順調でないと、どのようなことが想定されるかを理解する。
7	総論まとめ	講義	今までの学びを復習し、定期試験の準備を行う。
8	定期試験とその準備	講義	担当: 歯科技工士専任教員 総論全般を振り返る。7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	技工基本実習Ⅱ Basic Training of Dental technology II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1	(コマ数)		開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており養成所教員でもある。その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	限られた時間の中で課題が完成できるよう、反復練習を行い基本的な歯科技工技術を習得する。						
科目概要	有床義歯基礎実習における基本操作(盛る・削る・並べる)を通じて、歯科技工物を規定時間内で製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上下顎人工歯排列の基本操作を理解し、総義歯排列を行うことができる。 ・個人トレーの製作手順を理解し、製作できる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点として評価する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: 実習帳だけでなく、教科書の該当部分を読んでおくとよい。実習授業の理解度が上がるためである。 事後学習: 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行うこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	実習デモンストレーション時の提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	個人トレー製作①	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 模型のサベイングを行う。
2	個人トレー製作②	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 模型のサベイングを行う。
3	個人トレー製作③	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 ブロックアウト後、スペーサー・ストッパーの付与を行う。
4	個人トレー製作④	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 トレー用常温重合レジンを用いて、レジン圧接・柄の取り付けを行う。
5	個人トレー製作⑤	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 圧接したレジンの形態修正を行う。
6	個人トレー製作⑥	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 トレーコンパウンドの取り付けを行う。
7	上顎前歯部排列	実習	部分排列模型(1U)を用いて、上顎前歯部の人工歯排列の方法をデモンストレーションをみながら実践する。
8	下顎前歯部排列	実習	部分排列模型(1L)を用いて、下顎前歯部の人工歯排列の方法をデモンストレーションをみながら実践する。
9	上下前歯部排列	実習	部分排列模型(1U・2L)を用いて、1・2回目の実習で行った上下顎前歯部の人工歯排列を行う。
10	下顎臼歯部排列	実習	部分排列模型(3U)を用いて、上顎臼歯部の人工歯排列の方法をデモンストレーションをみながら実践する。
11	上顎臼歯部排列	実習	部分排列模型(3L)を用いて、下顎臼歯部の人工歯排列の方法をデモンストレーションをみながら実践する。
12	上下臼歯部排列	実習	部分排列模型(3U・3L)を用いて、4・5回目の実習で行った上下顎臼歯部の人工歯排列を行う。
13	全部床義歯模型の調整① 矯正用模型の調整①	実習	全部床義歯模型(402U・402L)にスプリット用の溝を形成する。 全部床義歯模型(402U・402L)にワックス顎端堤を取り付ける。
14	全部床義歯模型の調整② 矯正用模型の調整②	実習	全部床義歯模型(402U)をスプリットキャストにて咬合器装着する。 矯正用模型にバンドを取り付ける。
15	全部床義歯模型の調整③ 矯正用模型の調整③	実習	全部床義歯模型(402L)をスプリットキャストにて咬合器装着する。 矯正用模型にバンドを取り付ける。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎Ⅱ Basic Training of Dental CarvingⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験豊富な教員が、現在の業界動向も交えた解剖学の知識を、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用して授業を行う。						
目的	歯科技工物の製作に必須である、基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	代表的な(特徴のある)歯について、見本模型を彫刻やデッサンを用いて繰り返し製作を行う。目標設定及び教員によるフィードバックを適宜受けることにより、技術向上を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 歯の見本模型や実習帳を確認しながら、指定時間内に指定する歯種を彫刻することができる。 見本模型などを見ないで、指定時間内に指定する歯種のデッサンができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートの評価を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習として、毎日決めた時間内にデッサンをして大まかな形を覚え、彫る練習をすると比較的上達が早くなるので、推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	14面取り彫刻 45角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 模刻する。
2	14レベルチェック(面取り) 45角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> 見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をする。 達成度を確認する。
3	14荒彫り・仕上げ彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 外形の細部を形成する。(デモンストレーションを見ながら進める)。 模刻する。
4	45面取り彫刻 26角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 模刻する。
5	45レベルチェック(面取り) 26角柱～	実習	<ul style="list-style-type: none"> 見本模型と実習帳を確認しながら個人で面取り彫刻をする。 達成度を確認する。
6	45荒彫り・仕上げ彫刻	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 外形の細部を形成する。(デモンストレーションを見ながら進める)。 模刻する。
7	26面取り彫刻 26角柱	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら面取り彫刻をする。 模刻する。
8	36面取り彫刻 26レベルチェック	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら指定時間内に面取り彫刻をする。 模刻する。
9	36面取り彫刻 26レベルチェック	実習	<ul style="list-style-type: none"> デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら指定時間内に面取り彫刻をする。 模刻する。
10	26荒彫り彫刻70分	実習	<ul style="list-style-type: none"> 形態の特徴を把握しながら指定時間内に荒彫り彫刻をする。
11	36荒彫り彫刻70分	実習	<ul style="list-style-type: none"> 形態の特徴を把握しながら指定時間内に荒彫り彫刻をする。
12	21面取り彫刻 21レベルチェック	実習	<ul style="list-style-type: none"> 形態の特徴を把握しながら指定時間内に面取り彫刻をする。
13	21荒彫り彫刻70分	実習	<ul style="list-style-type: none"> 形態の特徴を把握しながら指定時間内に荒彫り彫刻をする。
14	23面取り彫刻 23レベルチェック	実習	<ul style="list-style-type: none"> 形態の特徴を把握しながら指定時間内に面取り彫刻をする。
15	23荒彫り彫刻70分	実習	<ul style="list-style-type: none"> 形態の特徴を把握しながら指定時間内に荒彫り彫刻をする。

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅱ Training of Dental Technology II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験豊富な教員が、その経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	各科目の学びをふりかえり、それらを活用した様々な歯科技工技術を習得する。						
科目概要	各科目で習得した知識や技能の確認を行う。課題製作を通じて、技術を向上させるために、学生自らも今後の課題を設定する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指定課題について、自ら課題を設定して課題に取り組むことができる。 ・課題終了後に到達度を記述することができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートの評価を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学・有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、必要な準備をして授業に臨むこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習： 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯配列、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
2	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯配列、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
3	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、人工歯配列、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
4	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に人工歯配列を試験形式で行う。
5	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に人工歯配列を試験形式で行う。
6	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
7	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
8	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に人工歯配列を試験形式で行う。
9	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に人工歯配列を試験形式で行う。
10	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
11	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
12	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に人工歯配列を試験形式で行う。
13	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に人工歯配列を試験形式で行う。
14	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。
15	試験形式実技練習	実習	定められた時間内に、ワックスアップ、歯型彫刻、歯のデッサンを試験形式で行う。

科目名 (英)	国際性講座 International Courses	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川口 恵
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金 / 1～4限
講師紹介	本校国際研修科の責任者やインストラクターによる講演など、様々な講師をお迎えし授業を行う。						
目的	より広い視野を持てる歯科技工士を目指すために、海外の歯科事情や歯科業界の動向を認識する。						
科目概要	国内外における歯科医療や訪問国における歯科業界の動向について、現地での研修を通じて学び記述することができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の歯科事情を知ることができる。 ・最新の歯科業界の動向を通じて、自身のキャリア形成との関わりについて説明することができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートを100点満点として評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	特になし			事前事後 学習と その内容	事前学習： 研修プログラムを確認し、必要な準備をして研修に臨むこと。 事後学習： 研修期間内で学んだことを、レポートにまとめる。		
参考図書	プリント(必要に応じて配布)						
特記事項	レポートは提出期限を厳守すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	海外研修 結団式/国内国際性講座	実習	研修内容の確認をする。自由研修内容の確認をする。				
2	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
3	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
4	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
5	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
6	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
7	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
8	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
9	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
10	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
11	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
12	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
13	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
14	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				
15	海外研修/国内国際性講座	実習	※後日発表各研修プログラム参照				